



よつばの手紙

特集「わたしたちの世代トークVol. 2」



- 目次
- ・ 特集 「わたしたちの世代トークVol.2」
 - ・ 現場の芽
 - ・ 行ってきました
 - ・ 市内企業レポート
 - ・ さんかく図書室
 - ・ おうめの散歩道
 - ・ 相談窓口の案内
 - ・ 人のわ

網野さんと娘さん

特集

「わたしたちの世代トーク Vol.2」

仕事と家庭のバランスは年々切り離すことのできない重要なテーマとなってきています。今回は、子育て真っ最中の30代の皆さんに「子育て」について様々な切り口でインタビューし、日頃の子育てを語ってもらいました。

あみのえみ
網野絵美さん(39歳)

子育てで困ったこと

今は子育てを楽しんでいるので、とくに困っていることは思い浮かびません。フリーでしているサックス演奏の仕事の日に、子どもを預ける人が見つからないと困るかなと思います。

仕事柄、本番の時にはどうしても子どもを連れて行けない事もあるので、夫や実家の母に預けていますが、快く引き受けてくれるので、ありがたいです。平日に仕事がある時には、原則、夫の仕事が優先ですが、休暇を取ってもらうこともあります。

また夜遅いこともあるので、家族の理解が必要です。

男の子・女の子を意識する時

娘(二歳)には物腰の柔らかい優しい子に育って欲しいと思っていますが、今はやっぱりいいです。四年前に他界した第一子(男の子)には障害があり、食事や身の回りの世話が必要な子で、育児に手がかかった分、娘はとても育てやすいと感じています。とにかく健康に育ってほしいです。

男の子と女の子には、生まれ持った違いというものがあるように感じます。上

の子は走り回るのが好きでしたが、娘は私の側で真似をすることが好きです。お化粧に興味を示したり、バックを腕にかけたり、洋服を揃えたがる様子を見ると、女の子らしいなあと思います。



網野さんと娘さん

我が家のルール

子どものペースで、急がせないで待つというのが我が家のポリシーです。夫婦とものんびりしているのが無理はしていません。二歳になって「自分で」と主張することが多くなってきたので、できるだけそうさせようと思います。小さな意見の食い違いはありますが、おおむね方針は一緒です。

夫の協力・男性の育児

夫は仕事の都合で、子どもと関わる時間も少ないので、日中の子どもの様子や出来事は必ず報告しています。夫はやさ

しく、子育ての主導権は私にあるかと思いますが、お互いを尊重し合うことと、「ありがとう」の一言はかかせないようにしています。夫も自然に口にしてくれるので、気持ちが落ち込んでいるような時でもほっとします。夫婦といえども気を遣うことは忘れないようにしています。

私の仕事は本番の時はもちろんですが、事前の練習時間もほしいので、子どもが寝た後には、夫に世話をお願いしています。起きだして泣くことがあっても、寝かしつけてくれるので助かっています。

私が忙しくて家事ができない時には、洗いや洗濯の取り込みをやってくれます。子どもの生活リズムは崩したくないので、眠そうにしていると、先にお風呂に入れてもらうこともあります。とくに乳児のころは、授乳(ミルク)のような直接子どもに関わる手伝いをしてくれるより、疲れている母親に代わって家事を担ってくれる方が助かります。上の子のことがあったので、そう感じるのかもしれない。夫にもそのことを言葉ではつきりと伝えて、協力してもらいました。それぞれの家庭ごとに適した役割分担があり、それがベストな状態であることが大切だと思っています。

仕事と子育て

今は育児・子どもとの生活を最優先に

考えていて、子育て中心の生活です。個人的な考えですが、〇〇三歳という子どもが一番かわいい時に、一緒にいて私も楽しみたいと思っていますのです。

働いている女性には、子どもが三歳になるころまで育児が認められて、遠慮せずに育児を取ることができ、その後職場復帰が保障されているという、しっかりした制度があればいいと思います。

出産後はNPOでの学習クラブの仕事も休むことを考えていましたが、代表が「頑張る気持ちがあるなら、子ども連れで働くママ第一号になればいい」と応援してくれました。クラブでお預かりしている小学生やその保護者の皆様にもご理解いただき、感謝の気持ちで続けていきます。周りの多くの方々に助けていただきながら子育てを（楽しんで）しています。

八木 洋さん(36歳)
ひろし

瑞季さん(35歳)
みずき

子育てで困ったこと

(みずき)結婚、出産が二十代前半と早かったのですが、子育てに困るというより経済的な問題のほうが大きかったです。そのことが原因で喧嘩をすることもありました。保険を解約したり、実家に相談に行ったこともありました。今は、上の子たち

が卒園して保育料の減額がなくなったので、保育料がもう少し安ければと思うくらいで、とくに困っていることはないですね。

男の子・女の子

(ひろし)一番上が男だから、どうしても「お兄ちゃんなんだから」と我慢させるようなところはありますが、とくに男だから女だからというのではなく、一番上が女の子だったらやはり「お姉ちゃんだから」と言うと思います。私自身も親には「男だから泣くな」と言われて育ちました。親として、子どもにしっかりと欲しいという気持ちからでしょうか。

(み)女の子だからという理由で家事を手伝わせることはせず、手伝いは自主性を尊重しています。出勤・登校で忙しい朝



八木さんご家族

は、決まりはなくてもどちらかできる方が子どもの世話をしますが、土曜日の朝食は男性陣が作ってくれるんですよ。

(ひろし)朝は本当に忙しいので、早く起きたらできる人がどんどんやる。自分たちの支度を先に済ませてから自由に子どもに関わるようにするという考え方です。

子育てのルール

(み)決まり事はありませんが、何か問題があった時には二人で話し合います。普段、子どもたちには「宿題はその日のうちに・やるべき事はその日のうちに」と言っていますが、とにかく外で元気に遊んで欲しい、遊ばせることです。

(み)父親も一緒になって遊びますし、上の子とは同等で喧嘩していますから子どもが四人いるみたいです。

夫の協力・男性の育児

(み)お互いの仕事の関係もありましたが、オムツの交換は私より彼のほうが多くやっているかもしれません。

(ひろし)そんなことないと思うけど。

(み)今は近くなりましたが、子どもが小さいころは私の職場が遠いこともあって、彼が子どもに関わる時間は多かったと思います。保育園も朝は私が送り、お迎えは彼でした。子どもの健診にも行ってくれました。当時はまだ「イクメン」

という言葉もないところで、「男性は一人だった」ということを聞いて、悪かったかなと思ったりもしましたが、感謝しています。

仕事と子育て

(ひろし)夏には海に行ったり庭で食事を楽しんだり、家族で楽しむことは多いので、とくに仕事だけの生活ではないですね。その仕事も、若い時は自分のためでしたが、今は家族の事を考えながら働いているという感じです。

(み)子育てにも経済的にも、二十代とは違って余裕が出てきたと思います。昔の友だちとの会話も最近はお互いの旦那さんの愚痴だったり、子どもの事や家庭の話題で、母親としての交流ができるようになったことも嬉しいですね。それと地域など、子どもをもつ親や家庭同士の交流もできるようになりました。

振り返って見ると子育ては大変なこと多かったですが、自分だけがやっている感、やってもらっている感をもたないようにはできました。自分だけが大変だと思えば、喧嘩にもなりますし。

(ひろし)お互い疲れていれば喧嘩にもなりまですね。ただし、昔と違って今は私が出て行くんですが、でも、最近は子どもたちが仲裁に入ってくれるようになりました。下の子の面倒も見てくれるし、その意味

では子育ても随分楽になってきました。
(み)その長男も来年は中学生。どんな中学生になるのか心配もありますが、まだしばらくは子ども中心の賑やかな家族、家庭が続きそうです。

高山千恵さん(32歳)

子育てで大変なこと・困ること

四人も育てていると大変でしょう、と言われることも多いのですが、全員が小さいころは大変だと思ったことはありません。大きくなって個々の主張がはっきりしてきたときからが大変です。

また、四人いるとケンカになったときに誰かが間に入っているので子どもたちだけで解決出来たりします。常に家の中に家族の誰かや友人等がいて見てくれるので助かっています。

男女で意識すること

男と女では身体も力も違いが出るので、うちでは話しにくいという「性」についても小さなころから自然に会話に出しています。小さなころから生活に馴染ませることで性についての知識が当たり前になるので、異性に対しての気持ちの持ち方が変わると思います。

また、うちのお風呂は薪も使っている

のですが、薪をくべたりするのは男の子がしてくれます。料理は女の子のほうが好きですね。これは男だから女だからという理由でそうだったのではなく、自然にそうになりました。

我が家のルール

自分の事は自分で決めてもらいます。たとえば学校の宿題をやってもやらなくてもいい。そのかわり学校の先生にどうしてやらなかったのかをきちんと説明して伝える覚悟があるのか、そこまで一緒に話して最終的には自分で決断して判断してもらいます。決まればそれを実行します。

家のお手伝いなど家族全員で決める事のあるときは家族会議を開きます。うちでは年齢によって就寝時間が違うのです



高山さん

が、成長期に必要な事はどんな事なのか一緒に考えます。そういう話も含めて家族皆で理解してからルールができます。

夫の協力・男性の育児

子育てについては、お父さんが、お母さんがというよりも人という先輩としてなを伝えられるのかという感じで話し合います。親でも大人でも理不尽な事はNGです。

子どもの話を聞いたり叱ったりというのは私の方が多いです。遊んだりするのは夫のほうが多いです。子どもたちの選択肢を狭めるようなことはしたくないので、男の子でも料理や家事などが楽しくなる環境で育てられるようふたりで話し合います。

仕事と子育て

それぞれの仕事の時間や趣味の時間を家族全員で全員を応援できるようにしています。仕事も趣味もやりたいことを諦めてほしくないという気持ちがあるので、私も家族に応援してもらって仕事や趣味の時間を持っています。家族がいるので出来なかった、諦めた、とか自分でも思いたくないし、思ってた欲しくないのが全員に協力してもらい、誰かのやりたい事は全員で助けあって生活しています。

現場の芽

健康センターでは、初めて赤ちゃんを迎えるお父さん、お母さんを対象に両親学級を開催しています。実際の育児が想像しやすいように、赤ちゃんの抱き方・おむつ交換・沐浴の仕方など実技を中心にプログラムされ、実習ではどの方とも丁寧に入浴に人形の赤ちゃんを扱い、一生懸命取り組んでいます。

お人形の赤ちゃんを大事に見つめて抱きかかえ、汗を流しながら慎重にお風呂に入れていく参加者の方々から、新しい命を迎えることへの自覚が伝わってきます。実習をとおして、「人形を使って練習が出来て、イメージが湧いた」「生まれる前に経験し、心構えが出来て良かった」「不安がなくなっただ」「自信がついた」など感想をいただきます。

以前に比べて、参加者も多くなりました。二人で協力をして子育てしているという姿を見て、とても頼もしく感じ、これから先も二人のチームワークで子育てを楽しんでほしいと願っています。

今後も出産・育児の不安を軽減し、自信をもって赤ちゃんを迎えることが出来るようにお手伝いをしていきます。青梅市健康センター

☎0428-23-2191

行ってきました

☆地域包括支援センター

うめぞの☆



皆さんは高齢者に関する心配事や、介護の困り事があった時の相談窓口をご存知でしょうか。そのような時の身近な総合相談窓口として、地域包括支援センターがあります。

地域包括支援センターは市内に3か所あり、お住まいの地区ごとに担当のセンターが決められています。今回は第2地区（河辺・御岳）を担当している「青梅市地域包括支援センターうめぞの」に行ってきました。

地域包括支援センターは、高齢者への包括的・継続的な支援や介護予防を推進する目的で、区市町村が設置しています。65歳以上の方と、40歳以上の要支援・要介護認定を受けた方を対象に、介護のことに限らず生活全般に関する総合的な相談の他、権利擁護や虐待防止に関する業務、要支援1・2の認定を受けた方が介護予防サービスを利用するための介護予防ケアプランの作成等も行っており、電話相談は24時間体制で受付けています。

高齢者の家族からの相談が圧倒的に多い中で、民生委員さんや病院からの

相談もあり、その内容に合わせて、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等の職員が対応しています。

市では、毎年7月に要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方に健康増進や介護予防を目的として、基本チェックリストを送付しています。対象者のうち必要な方は、運動指導や保健師による訪問相談等のサービスを原則3か月利用できますが、「この基本チェックリストでもすべての対象者を拾い上げることができないわけではありません。昔からある地域のつながりや民生委員さんの力が大変重要であるため、今後も地域の良さを引き出していきたいです」と職員の方がお話ししてくださいました。

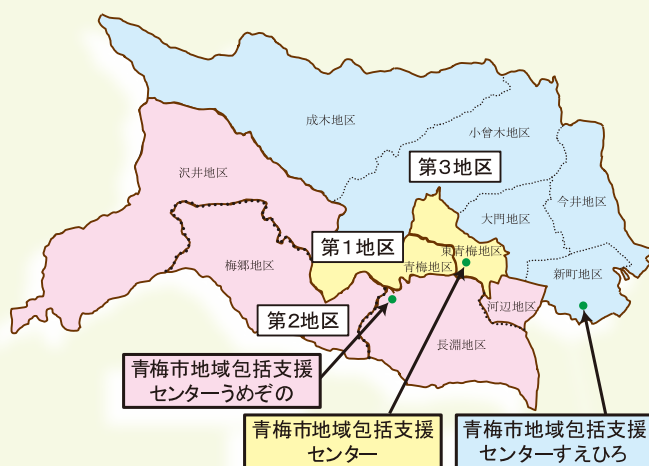
「介護は女性がするもの」という思い込みが高齢の世代ほど強く一人で抱え込んでしまう場合や、相談先が分からずに男性が一人で介護しているケースなども増えているそうです。働き盛りの世代が、仕事と介護の両立が難しくなっても介護休暇の制度を活用できずに仕事を辞めざるを得なくなる状況

もあり、介護の負担を減らし、仕事と介護のバランスをとるためにも、地域包括支援センターを活用してほしいとのことでした。

介護が一人の負担にならないよう、男性、女性にかかわらず家族が協力し、また地域で連携しながら高齢者を支えていけるようにしていくことが、今後の課題と言えるでしょう。

相談は電話だけでなく、直接センターを訪れて行うことも可能です。お気軽に相談してみたいかがでしょうか。

※平成27年度には介護保険制度の改正が予定されています。詳細については、お近くの地域包括支援センターにお問い合わせください。



生活圏域	名 称	所 在 地	担 当 地 区	連絡先
第1地区	青梅市地域包括支援センター	東青梅 1-1 1-1	勝沼、西分町、住江町、本町、仲町、上町、森下町、裏宿町、天ヶ瀬町、滝ノ上町、大柳町、日向和田、東青梅、根ヶ布、師岡町	22-1111 内線2127
第2地区	青梅市地域包括支援センターうめぞの	駒木町 3-5 9 4-1	駒木町、長淵、友田町、千ヶ瀬町、河辺町、畑中、和田町、梅郷、柚木町、二俣尾、沢井、御岳本町、御岳、御岳山	24-2882
第3地区	青梅市地域包括支援センターすえひろ	末広町 1-4-5	吹上、野上町、大門、塩船、谷野、木野下、今寺、新町、末広町、藤橋、今井、富岡、小曾木、黒沢、成木	33-4477

～「頼れる職人企業」から「感動のサービス」を 提供するために「おもてなしの心で」を目指して～

武州工業株式会社の林英夫社長に自社で取り組まれている活動についてお話を伺いました。



武州工業株式会社
代表取締役 はやし ひで お 林 英 夫 さん

◆事業内容

主にパイプ曲げ加工、板金加工の事業を行っており、自動車部品関連だけでなく、今まで培ったパイプ量産技術で医療部品関連の製造も行っています。「地域で仕事をする」をテーマに掲げて、自律性を重んじた職人企業を目指し、一人ひとりが生産管理から製造、検査まで責任を持って行う仕組みを構築し、更なる発展を目指しています。

事業所は青梅市内には本社工場と2013年3月に環境に優しい新町工場を構え、武蔵村山には倉庫も構えています。

◆会社での取り組み

男女問わず、一人ひとりがさまざまな仕事ができるように、一番難しい仕事を最初に覚えてもらう教育をし、一人の技術者が多能工化して効率よく仕事を進めていけるように力を注いでいます。現在では、医療部品製造の部門に女性が多くポジションを任されるようになり、活躍しています。

◆さらに技術を磨くために積極的な挑戦も

2014年1月に第2回東京ビジネスデザインア

ワードにて最優秀賞を受賞した初の自社製品である知育玩具「パイプグラム」を今年9月末を目処に販売するため、現在2人の女性に製品立上げの中心メンバーになって貰いました。パイプ曲げ技術にデザイン性が加わった製品であるため、女性ならではの感性が活きると考えております。既存の事業とは違った分野に進出することでさらなる技術の向上や社会貢献に寄与できればと思っております。

◆今後について

これからは「めざせAランク」（人の判断を伴わない自動全数検査）を目指し、不良ゼロへの挑戦も行いながら、企業全体の底上げをしていくとともに、新規の取引先も増やしていけるようにして、社員一丸となって会社を成長させていきたいと思っています。

武州工業株式会社（青梅市末広町）

設立 昭和27年12月

従業員数 140人（男性105人 女性35人）

パイプ曲げ加工 板金加工 等

<http://www.busyu.co.jp/>

コウノドリ1～5巻

（以下続刊）

鈴ノ木ユウ 著
講談社



さんかく図書室

正常の出産に産科医は必要ない 病気ではない出産で何かが起こりうるから産科医が必要なのだ（作中より）

「未受診妊婦」「切迫流産」「人工妊娠中絶」「夫のDV」「風疹」など、主人公の産科医・鴻鳥サクラ（こうのとりさくら）や同僚の医師、助産師たちと患者である妊婦や父親たちが直面した、妊娠・出産にまつわる様々な難しいケースに悩み苦しんだ末の決断と産科の現場を描いたマンガ作品。

連載中の「モーニング」はどちらかといえば青年男性向けの週刊誌であるが、綿密な取材によって描かれたリアルな物語が主に妊娠前後や子育て中の母親たちの間で話題となり、待合室に置いているという産婦人科が現れるほどの反響となっている。

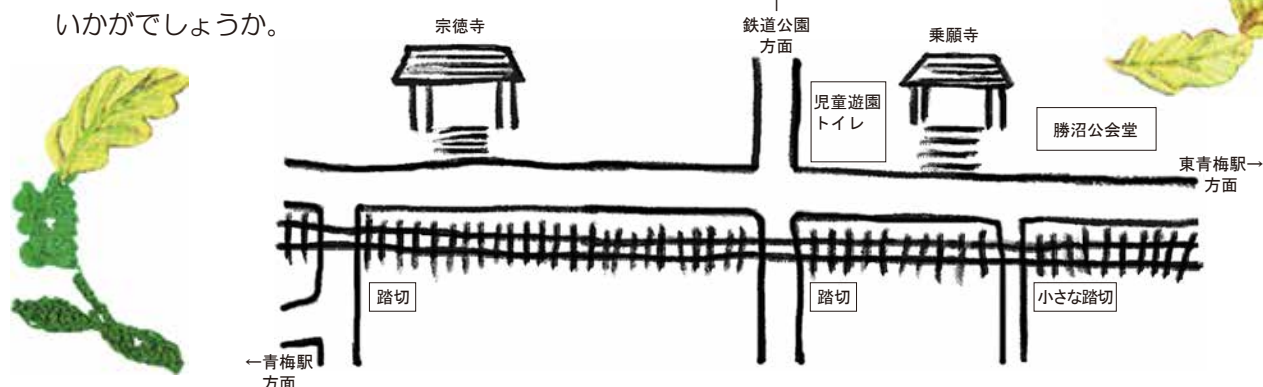
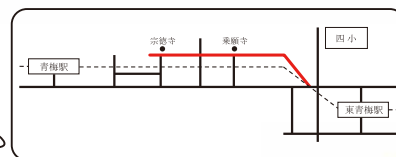
母親たちだけではなく父親、もしくはこれから父親になる男性に、子育てへの第一歩のひとつとして読んでもらいたい一作。



おうめの散歩道

青梅線の東青梅駅から青梅駅の間に線路に沿って歩ける小さな道路があります。線路に沿って伸びた道路へ足を運ぶと背丈の高い草が風に揺れています。並行して走る電車の大きな音が遠ざかると鳥の鳴き声が聞こえてきました。思わず渡ってみたいくなる小さな踏切や歴史あるお寺、いつもとちょっと趣向を変え新しい風景を探しながらの散歩、いかがでしょうか。

今回は小さな線路沿いの道路を散歩しました。並行して走る電車が近くで見られる、約600mの散歩道です。



相談窓口の案内

公的支援機関の相談窓口をご利用ください。

相 談 先		内 容
女性の相談	東京ウィメンズプラザ TEL03-5467-2455 毎日 9:00～21:00 (年末年始は休み)	女性の総合相談 ドメスティック・バイオレンス、夫婦・親子の問題、生き方や職場の人間関係など (就職活動の支援は行っておりません)
	東京都女性相談センター 多摩支所 TEL042-522-4232 月～金曜日 9:00～16:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	
	青梅市役所 TEL0428-22-1111 月～金曜日 8:30～17:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	
	青梅警察署 TEL0428-22-0110 緊急の場合 110番通報	
女性の就職	ハローワーク立川 マザーズコーナー TEL042-523-1509 月・木曜日9:00～19:00、火・水・金曜日9:00～17:00、第1・3土曜日10:00～17:00 (第2・4・5土曜日、日曜日、祝日、年末年始は休み)	キャリアカウンセラーによる女性の就職活動全般の相談 キッズコーナーも併設
子育て支援	青梅市子ども家庭支援センター TEL0428-24-2126 月～金曜日 8:30～17:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	子どもと家庭に関するあらゆる相談
	青梅市子育て支援センター TEL0428-31-1318 毎日9:00～17:00 (第2月曜日(この日が祝日の場合はその翌日)、年末年始は休み)	親子で自由に遊べる場、子育て支援情報の提供など
	青梅市ファミリー・サポート・センター TEL0428-23-3888 受付：月～金曜日 8:30～17:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	子どもの保育園などへの送迎や預りを一時的にお手伝い
	市では、子育て支援情報に特化したホームページ「おうめ子育てねっと」(http://ome-kosodate.net/)を開設しています。	
健康	青梅市健康センター TEL0428-23-2191 月～金曜日 8:30～17:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	妊産婦および乳幼児に対する健康診査・相談・教室・予防接種など
男性のための悩み相談 東京ウィメンズプラザ TEL03-3400-5313 月・水曜日 17:00～20:00 (祝日、年末年始は休み) 夫婦・子どもの問題、職場や地域の人間関係、セクハラや暴力の問題など男性の抱えるさまざまな悩みに男性相談専門の相談員が対応		

人のわ

井上 路枝さん (45歳) (根ヶ布在住)



井上さん (前列左から3番目)

6月の中旬、梅雨の少し重たい空模様の日でしたが、青梅市が昨年・一昨年と企画した講座に参加した人たちの合同同窓会が開かれ、福祉センターの一室は懐かしい顔ぶれが集まり、お互いの近況を報告しながら再会の嬉しさで賑わいました。

その講座は、自分の持っている「私らしさ」を大切にしながら、5年後の自分をイメージしていくものでした。参加者

は、子育て中であつたり、子どもたちが独立したので自分のこれからを深めたいと思う方、自分のスキルを仕事に活かしたいと考えている方など様々でした。違った立場の人がいるからこそ仲間同士のアドバイスも深まり、同じ地域に住んでいる女性が自分のこれから見つめて活き活きしていく様子は、お互いの喜びであり、良い刺激になりました。

そして、講座が終わった後もこの関係が続けて行きたいと皆が強く思い、有志によるヨガと茶話会を兼ねた同窓会の企画に至りました。

人と繋がることでお互いの知識や行動範囲が広がり、人の輪が広がっていくことで地域全体が豊かになっていきます。

「あなたらしさ」を認めて、「私らしさ」を大切にしながら生活し、女性が元気だと地域も元気になります。そして、楽しそうな大人の姿を見ながら、人と繋がることの心地良さが周りの子どもたちにも伝わっていくと良いと思います。

〈編集後記〉

- 特集の取材で「銀も金も玉もなにせむに優れる宝子にしかめやも」(山上憶良)を思います。未来を担う子どもたちは社会の宝です。(ふ)
- 要介護状態にならないための取り組み(生活習慣や運動)についてどんなことがあるのか・どんなことをしたらいいのか、もっと具体的に知りたくまりました。(み)
- 「子育て」において、それぞれの家族でルールがあつたり、子どもの意見を尊重して話し合いをしながら子育てをしたりと、自分が思っている以上に協力して子育てしている家庭が多いと感じました。また、家庭と仕事を両立してがんばっている家庭が多く、自分の励みにもなりました。(い)
- おうめの散歩道を担当しました。地図の作成、大変でした。でも仕上がってよかったです。(さ)
- 学習会を通して、文字で思いを伝える事は、とても難しい事であり大切な事であることを学びました。(か)

よつばの手紙は「青梅市男女平等推進計画」にもとづき、男女平等参画社会の実現を目指し、編集・発行しております。

みなさんのご意見・感想をお寄せください

よつばの手紙 第11号

発行日 2014年9月
発行 青梅市企画部企画政策課
電話 0428-22-1111

編集 男女平等情報紙編集委員会
編集委員 福島恵美子 三輪 覚子
岩波 直樹 佐藤 裕子
川崎 茜